

# 第68回 青少年読書感想文全国コンクール 課題図書

## 小学校 低学年の部

1・2年生



**つくしちゃんとおねえちゃん**  
いとうみく 作  
丹地陽子 絵  
定価 1,320円(本体 1,200円)  
ISBN978-4-8340-8599-0  
〈福音館書店〉



**ばあばにえがおをどけてあげる**  
コーリン・アーヴェリス ぶん  
イザベル・フォラス え  
まつかわまゆみ やく  
定価 1,650円(本体 1,500円)  
ISBN978-4-566-08076-8  
〈評論社〉



**すうがくでせかいをみるの**  
ミゲル・タンコ 作  
福本友美子 訳  
定価 1,760円(本体 1,600円)  
ISBN978-4-593-10111-5  
〈ほるぷ出版〉



**おすしやさんにいらっしやい!**  
:生きものが食べものになるまで  
おかだだいすけ 文  
遠藤宏 写真  
定価 1,760円(本体 1,600円)  
ISBN978-4-265-83083-1  
〈岩崎書店〉

## 小学校 中学年の部

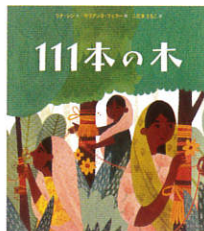
3・4年生



**みんなのためいき図鑑**  
村上しいこ 作  
中田いくみ 絵  
定価 1,320円(本体 1,200円)  
ISBN978-4-494-02070-6  
〈童心社〉



**チョコレートタッチ**  
パトリック・スキン・キャトリング 作  
佐藤淑子 訳  
伊津野果地 絵  
定価 1,430円(本体 1,300円)  
ISBN978-4-580-82488-1  
〈文研出版〉



**111本の木**  
リナ・シン 文  
マリアヌ・フェラー 絵  
こだまともこ 訳  
定価 1,540円(本体 1,400円)  
ISBN978-4-89572-268-1  
〈光村教育図書〉



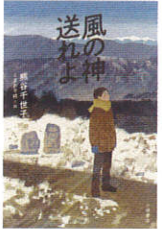
**この世界からサイがいなくなってしまう**  
:アフリカでサイを守る人たち  
味田村太郎 文  
定価 1,540円(本体 1,400円)  
ISBN978-4-05-205327-6  
〈学研プラス〉

## 小学校 高学年の部

5・6年生



**りんごの木を植えて**  
大谷美和子 作  
白石ゆか 絵  
定価 1,650円(本体 1,500円)  
ISBN978-4-591-16993-3  
〈ポプラ社〉



**風の神送れよ**  
熊谷千世子 作  
くまおり純 絵  
定価 1,650円(本体 1,500円)  
ISBN978-4-338-30807-6  
〈小峰書店〉



**ぼくの弱虫をなおすには**  
K・L・ゴーング 作  
久保陽子 訳  
早川世詩男 絵  
定価 1,760円(本体 1,600円)  
ISBN978-4-19-865325-5  
〈徳間書店〉



**捨てないパン屋の挑戦**  
:しあわせのレシピ  
井出留美 著  
定価 1,430円(本体 1,300円)  
ISBN978-4-251-07311-2  
〈あかね書房〉

## 中学校 の部



**セカイを科学せよ!**  
安田夏菜 著  
定価 1,540円(本体 1,400円)  
ISBN978-4-06-524629-0  
〈講談社〉



**海を見た日**  
M・G・ヘネシー 作  
杉田七重 訳  
定価 1,760円(本体 1,600円)  
ISBN978-4-7902-3382-4  
〈鈴木出版〉



**江戸のジャーナリスト 葛飾北斎**  
千野境子 著  
定価 1,540円(本体 1,400円)  
ISBN978-4-337-18764-1  
〈国土社〉

## 高等学校 の部



**その扉をたたく音**  
瀬尾まいこ 著  
定価 1,540円(本体 1,400円)  
ISBN978-4-08-771741-9  
〈集英社〉



**建築家になりたい君へ**  
隈研吾 著  
定価 1,540円(本体 1,400円)  
ISBN978-4-309-61729-9  
〈河出書房新社〉

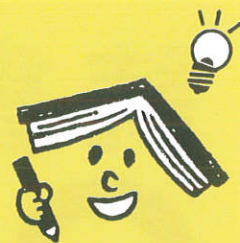


**クジラの骨と僕らの未来**  
中村玄 著  
定価 1,430円(本体 1,300円)  
ISBN978-4-652-20436-8  
〈理論社〉



# 読書感想文 Q & A

「読書感想文をどうやって書いたらいいかわからない」  
「どんな本を読んだらいいかわからない」  
そんな声にお答えします。  
さあ、読書感想文にチャレンジしよう！



イメージキャラクター おほんちゃん

**Q** なぜ、本を読むことが大切なのですか。

**A** 一冊の本が、人生を変えてしまうことがあります。本の中で旅をしたり恋をしたり、冒険をしたり……。人は本の中でいろいろなことを体験できます。登場人物と自分の生き方や考え方を比べて、共感したり反発したりします。また、本を使って、疑問に思ったことを解決するために調べることもできます。本を読んで新しいことを知ると、びっくりしたりうれしくなったりします。本は、人の心を成長させてくれ、いろいろなことを教えてくれる友だちです。

**Q** 読書感想文は、何のために書くのですか。

**A** 書くことによって考えを深められるからです。読書感想文を書くことを通して思考の世界へ導かれ、著者が言いたかったことに思いをめぐらせたり、わからなかったことを解決したりできるのです。ですから読書感想文は「考える読書」ともいわれます。また、どんなに強く心を動かされても、時間がたてばその記憶は薄れてしまいます。読書感想文は自分自身の記録です。読み返すことによって、いつでも「感動した自分」に出会うことができるのです。

**Q** 「課題読書」・「自由読書」って何ですか。

**A** 読書感想文コンクールの主催者が指定した本を読んで書くのが「課題読書」です。本の専門家の先生方が、新しく出版されたたくさんの本の中から、学年に合わせて、多くの感動を得られたり新たな知識を得られたりする本を、フィクション、ノンフィクション、外国作品など幅広く選んだものです。ぜひ読んでみてください。一方、自分で読みたい本を自由に選んで読書感想文を書くのが「自由読書」です。フィクションでもノンフィクションでもかまいません。読書感想文は「読書の幅」を広げるチャンスです。ふだん物語や小説をよく読む人は科学の本にチャレンジしたり、スポーツの本をよく読む人は伝記を読んでみたりしてください。

**Q** 何をどう書けばいいかわかりません。どうすればいいですか。

**A** 本を読んで自分がどこに感動したのか、なぜ感動したのかを考えましょう。そしてもう一度本を読んでみましょう。自分の生き方や経験と本の世界とを照らし合わせると、いろいろなことが見えます。感じたこと、思ったこと、連想したことなどを忘れないうちに全部メモしておきましょう。そうしたら、順番を入れ替えたり内容を補ったりして、どう書けば自分の心の動きにぴったりするか、それがうまく人に伝わるかを考えましょう。先生や家の人と相談してみるのもいいでしょう。そうするうちに何をどう書けばいいのかが、自分が一番言いたいことは何なのかははっきりしてきます。書き終わった時には、それまでとはどこか少し違った自分になっていることに気づくはずですよ。

**Q** どんな本を読んだらいいのかわかりません。教えてください。

**A** 思いっきり楽しめたり、自分を見つめなおしたり、新しいことを教えられたり……。自分の心を突き動かしてくれる本が、その人にとっての「良い本」だといえます。自分に合った、心を動かされる本を探してみましょう。迷ったら、自分のことをよく知っている人、たとえば家族や担任の先生、教科の先生、部活の顧問の先生に相談してみましょう。「本の専門家」の図書館の先生に相談してもいいでしょう。友だちと紹介し合うのもいいですね。

**Q** 題名はどうつけたらいいですか。

**A** 本を選ぶとき、本の題名を見ながら「おもしろいかなあ？」とか「読んでみようかなあ？」と考えることはありませんか。題名一つ見ただけで「読んでみたい」とか「読みたくない」とか思ってしまう。魅力的な題名は人をひきつける力があります。せっかく書いた読書感想文ですから、人が読んでみたくなるような題名を考えましょう。自分が一番感動したことやもっとも言いたいことの、中心となることばを考えて題名にするといいでしょう。

**Q** 読んだ本の本文や解説などを引用してもいいですか。

**A** 読書感想文は、本を読んだ自分の思いや心の動きを中心に書くものですから、できるだけ自分のことばを使って書くようにしましょう。確かに解説やあとがきなどは、本の世界をより深く理解するために参考になることがあります。ですから、場合によっては引用する必要が出てくるかもしれません。そのときは、どうしても必要な部分だけを引用することにして、必ず「」（カギカッコ）でくくりましょう。

**Q** 字数は規定の字数以内なら何字でもいいですか。

**A** 本を読んだ感動や本を読んで考えたことを、人に伝えるように十分に書き表すためには、ある程度のことばの量が必要です。心の中にあふれる思いを、たくさんのことばを使って表現してみましょう。字数の規定はいわばことばで表現できるグラウンドの広さです。せっかく広いグラウンドが用意されているのに、それを自分で狭くする必要はありません。規定の字数をなるべくいっぱい使って、思いっきり読書の感動を表現してみましょう。